

[成果情報名] ニジサクラ養殖用種苗の池入れ適期

[要 約] ニジサクラ種苗の池入れは、10月末までを目途に実施することで、遅滞の少ない成長が見込まれる。

[部 署] 山形県内水面水産研究所・生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 指

[キーワード] ニジサクラ、池入れ時期、餌付き

[背景・ねらい]

県では、平成31年度からニジサクラのブランド化を進めているが、ニジサクラ養殖の実施主体となる本県の民間養殖場では、塩焼きや甘露煮サイズ（全長20cm程度）の取り扱いがほとんどであることから、大型マスの養殖ノウハウを十分に有しているとは言えない。ニジサクラの養殖普及に当たっては、養殖方法について一定程度の標準化を図っていく必要があると考えられることから、民間養殖場における養殖試験を実施し、基礎データを収集した。

[成果の内容・特徴]

- 1 2019年10月30日に養殖場A、10月23日に養殖場B、12月20日に養殖場Cの計3箇所各300尾のニジサクラ種苗を池入れした（表1）。池入れ後は、原則として2箇月おきに20尾以上を無作為抽出した平均体重の定期測定を実施し、併せて、水温データロガーを設置して、毎日の正午の水温を記録した。
- 2 湧水を水源とする養殖場Aでは、冬期間の水温がおおむね12℃以上で推移し（図1上）、2019年12月12日から2020年2月26日の日間成長率（ $=\{(W2-W1)/D \cdot (W1+W2)/2\} \cdot 100$ W1：期間始めの平均体重 W2：期間終わりの平均体重 D：飼育日数）は0.91%だった。これに対し、河川水を使用する養殖場Bでは、2月9日の3.8℃を最低に冬期間の水温がおおむね7℃以下で推移し（図1中）、2019年12月23日から2020年3月5日の日間成長率は0.33%と前者の三分の一程度に留まった。一方、養殖場Cは養殖場Aと同じく湧水を水源とし、冬期間の水温はおおむね9℃以上で推移したが（図1下）、2019年12月20日から2020年2月25日までの日間成長率は0.08%とほぼ横ばいとなった。
- 3 池入れによって種苗が受ける水温差は、養殖場Aが0.7℃、養殖場Bが0.4℃とわずかだったのに対し、養殖場Cでは2.4℃の低下が見られた（表1）。養殖場Cでは、水温低下によるストレスに加え、季節的に魚の摂餌活性が下がる12月に池入れしたことが影響し、池入れ後の摂餌活性の回復が遅れて成長停滞に繋がったものと推測された。よって、ニジサクラ種苗の池入れは、水温と種苗の生理的な側面を考慮し、10月末までを目途に実施すると遅滞の少ない成長が見込まれる。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ニジサクラ生産・出荷マニュアル（2020、大型マスブランド化検討会生産体制検討部会）の改訂に利用し、養殖計画の立案に活用する。
- 2 養殖場Aでは、2020年7月28日に発生した令和2年7月豪雨の被害を受けて試験養殖を中止した。

[具体的なデータ]

表1 池入れの状況

養殖場名	所在地域	用水	池入れ年月日	供試数 (尾)	平均体重 (g/尾)	養殖場 水温(°C)	種苗生産池 水温(°C)
A	村山	湧水	2019/10/30	300	71.8	13.6	12.9
B	置賜	河川水	2019/10/23	300	73.3	13.4	13.0
C	最上	湧水	2019/12/20	300	105.2	9.9	12.3

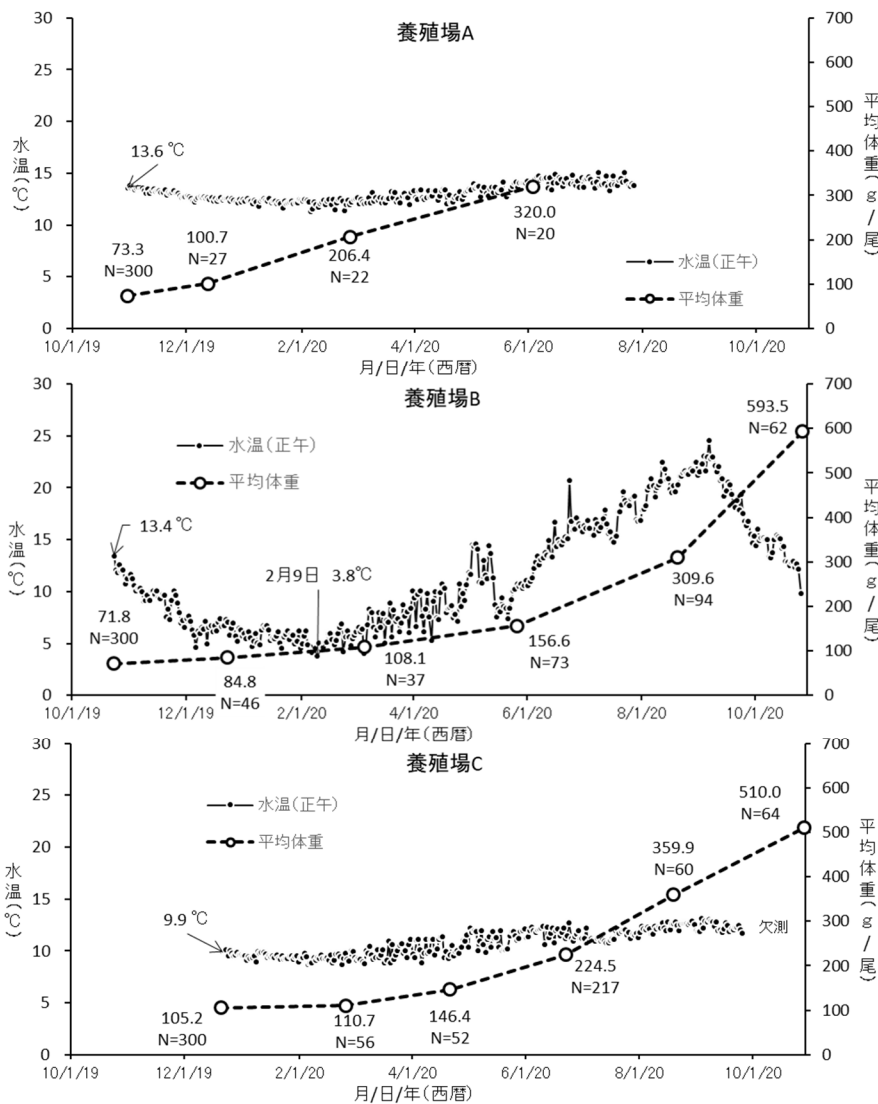


図1 各養殖場の水温と平均体重

[その他]

研究課題名：大型マス安定生産技術開発試験

予算区分：県単

研究期間：令和2年度（令和元～2年度）

研究担当者：野口 大悟

発表論文等：なし